

令和4年度 事業報告書

事業の状況

1. 事業の実施状況

軽種馬の資質の向上並びに軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図り、競馬の安定的な発展を通じ、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、以下の事業を積極的に実施した。

(1) 軽種馬の育成調教技術の改善・普及

軽種馬の育成調教技術の改善・普及を図るため、軽種馬生産・育成者等を対象に講演会・講習会を開催するとともに、技術普及誌（BTCニュース）を発行し、育成調教技術向上のための情報を提供することにより、生産地の基幹産業である軽種馬の生産・育成業の活性化を図り、地域社会の発展に寄与した。

- ① 育成技術講演会は生産者・育成者等の技術向上を図るため、9月に東北地区および九州地区において「繁殖学に基づいた繁殖牝馬の管理方法」を、10月に北海道地区において「馬と折り合うための技術」を、テーマに、それぞれ日本中央競馬会および（公社）競走馬育成協会との共催で開催したが、関西地区、関東地区については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。
- ② 育成調教技術者短期講習会は、育成業務に携わる者を対象に騎乗技術のレベルアップと知識の習得を図るため、秋期（10月）に、各1週間の講習会を計4回実施し、15名が受講した。
- ③ 技術普及誌「BTCニュース」は、馬に関する基礎知識、生産・育成に関する技術および情報等を中心に、読者にわかりやすい内容で掲載し、年4回、各回3,200部発行・配付した。
- ④ JRA競馬場来賓室の利活用方針に基づきBTCニュース広告主に対し、東京競馬場にて研修会を実施した。

(2) 軽種馬の育成調教技術者の養成

軽種馬の生産地等において、育成調教技術者として就労を希望する者に、1年間の研修を通じ、馬に関する体系的な技術・知識を習得させ、育成調教業務の技術的中核となる人材を養成し、就労の支援を行うことにより軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図った。

- ① 令和3年入講の第39期生(25名)は、令和4年4月15日に18名が研修を修了し、軽種馬の生産・育成牧場に就労した。
- ② 修了生のうち成績優秀者を、(公社)競走馬育成協会の軽種馬経営高度化指導研修事業の海外研修に推薦していたが、第39期修了生については、新型コロナウイルス感染症のため実施しないこととなった。
- ③ 令和4年4月18日入講の第40期生(25名)は順調に受講している。
- ④ 事業の情宣活動を拡充・改善するとともに、体験入学会を7月21日(主催 BOKUJOB)、7月29日、8月12日、8月18日(主催 BOKUJOB)の計4回実施し、全国より55名が参加した。

また、BOKUJOB事務局(競走馬育成協会ほか5団体)として活動し、「牧場で働こう体験会」(7月31日～8月5日)、「BOKUJOBサポートデスク」(静岡県御殿場：全国高校馬術大会7月17日～21日、苫小牧市ノーザンホースパーク：各種馬術大会5月～9月毎月1回計5回、札幌競馬場：8月13日・14日、東京競馬場：11月19日・20日)およびWeb会議ツールZOOMを使用した「BOKUJOB 2022Webフェア(6月4日・5日・11日・18日、11月3日・5日・6日)」等の事業に参画した。なお、例年実施されている「牧場で働こうフェア」(東京競馬場、阪神競馬場)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。

- ⑤ 令和5年4月入講予定の第41期生については、72名の応募があり、27名を選考した。

(3) 共同利用に供する軽種馬の育成調教施設の運営・管理及び貸与

日高育成総合施設軽種馬育成調教場を不特定多数の軽種馬生産・育成者に共同利用のために提供し、その利用を通じ、軽種馬の資質の向上とともに経営基盤の安定、強化を図り、生産地の活性化に寄与した。

また、育成調教場利用馬における育成調教の指針や飼育管理に関する情報を、

利用者に提供するための調査研究を実施した。

なお、特定資産取得・改良資金を利用してホームページのリニューアルを行い調教場に関する情報提供の充実を図るとともに、施設の保守に必要な作業機械の更新及び利用馬の車両事故防止のための馬出入口電動ゲートへの回転灯設置など調教場のより安全な管理に取り組んだ。

① 調教場の利用状況

イ) 調教責任者の申請承認

調教責任者	40名	(法人35名、個人5名)
調教要員	577名	(うち外国人 347名)
調教用馬	4,185頭	(うち利用馬 3,658頭)

※調教要員および調教用馬は年間申請数

ロ) 利用頭数

利用延頭数	140,478頭	(前年比 109.8%)
利用実頭数	3,658頭	(前年比 108.4%)
1日平均	451.7頭	(前年比 109.8%)
うち日帰り馬	417.7頭	(前年比 108.8%)
1日の最高利用頭数	646頭	(令和4年5月3日)
※調教場開場以来の最高頭数	787頭	(平成23年5月3日)
利用料収入	251,184,606円	(前年比 105.2%)
※内診療収入	44,047,806円	(前年比 94.3%)

② 馬場および施設等の主な管理状況

イ) 屋内トラック馬場

8月にクッション砂の取替工事を行ったほか、均一な砂厚に管理した。

ロ) 1600mトラック砂馬場

コース中央にクッション砂を厚さ計3cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

ハ) 800mトラック砂馬場

均一な砂厚調整に努め、全面を9cmに管理した。

ニ) 1200・1600m直線砂馬場

両コースとも中央部にクッション砂を厚さ2~3cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

また1200m直線砂馬場は10月上旬にクローズし、路盤補修とクッ

ション砂の取替工事を行った。

ホ) 2000m芝馬場

2コースに分けて管理を行い、傷みが比較的激しい箇所には芝の部分的な移植を行い管理した。また、目砂には黒土やピートモスを混合するなど、芝の活着促進に努めた。

ヘ) 坂路グラス馬場

コース外の生育不良カ所について、耕起・転圧・整正・種子吹付を行い、芝の生育管理に努めた。

ト) 屋内坂路馬場

9月～10月にかけて表層のウッドチップを11cm程度スキ取り、ふるい分けた旧材と新材の混合材を補充することでウッドチップ厚を約25cmに調整した。また、定期的に少量のウッドチップの補充(合計5cm厚)および攪拌を行い管理した。

チ) 屋内直線馬場

9月に両走路共に表層のウッドチップを11cm程度スキ取り、ふるい分けた旧材と新材の混合材を補充することでウッドチップ厚を約25cmに調整した。また、定期的に少量のウッドチップの補充(合計5cm厚)および攪拌を行い管理した。

リ) 教育エリア 800mトラック砂馬場

均一な砂厚調整に努め、全面を9cmに管理した。

③ 競走成績

中央競馬 747勝(昨年度 738勝)

うち2歳馬 123勝(昨年度 124勝)

地方競馬 3,252勝(昨年度 3,158勝)

中央競馬のグレード競走 GI:0勝、GII:8勝、GIII:15勝

JGI:0勝、JGII:1勝、JGIII:3勝

地方競馬で開催されたダート重賞競走

Jpn1:2勝、Jpn2:4勝、Jpn3:4勝

海外で開催されたグレード競走

GI:1勝(UAE)、GII:1勝(UAE)

④ 調査研究

イ) 免疫抑制薬であるシクロスポリン点眼薬が有効であった角膜炎症例について、継続的な検査を実施し、それらの臨床症状・治療経過等の回顧的調査を行った。

- ロ) 抗菌点眼薬として用いられているロメフロキサシンに対する有効菌種等の感受性の推移を把握するため、本剤を使用した馬から菌分離および薬剤感受性調査を実施した。
- ハ) 生産地疾病等調査研究のテーマである生産地における消化管内寄生虫に関する調査において、育成牧場へのアンケート調査を行った。
- ニ) 第一指（趾）骨不完全骨折の発生状況、治療方法および成績について回顧的調査を行った。
- ホ) 野外における立位での骨盤 X 線撮影法について検討した。
- ハ) 研究成果を以下のとおり公表した。

a) 学会等の発表

「シクロスポリン点眼薬を用いて治療した馬の角膜炎 9 症例」

（北海道獣医師会 令和 4 年度北海道地区学会）

（日本ウマ科学会 第 35 回学術集会）

「日高地区における子馬の消化管内寄生虫に関する

獣医師アンケート調査」

（北海道獣医師会 令和 4 年度北海道地区学会）

「腱拘縮を発症した馬に対する 3D プリントシューの応用」

（第 64 回競走馬に関する調査研究発表会）

b) 誌上発表

「診断麻酔の基礎」

（BTC ニュース 2022 年 No.129）

c) 講習会等

「BTC における育成馬の運動器疾患の発生状況」

「育成馬にみられる骨折」

「中手近位掌側部の傷害～いわゆる深管骨瘤のはなし～」

「動画でわかる診断麻酔」

（公社 北海道家畜畜産物衛生指導協会 馬臨床技術検討会）

「育成馬にみられる骨折」

（北海道日高装蹄師会 秋期装蹄技術向上講習会）

「腱拘縮を発症した馬への 3D プリントシューの応用」

（第 2 回「生産地における 3D 技術の活用」に係る検討会）

2. 評議員会等

令和4年2月10日

第1回 理事会（定例）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 令和3年度事業報告及び決算の件
(2) 第1回評議員会（定時）の開催の件

報告事項 (1) 理事長、専務理事の職務の執行状況
(2) 財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

令和4年3月17日

第1回 評議員会（定時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 令和3年度事業報告及び決算の件
(2) 評議員選任の件
(3) 役員選任の件

報告事項 (1) 財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席5名、欠席4名、監事出席1名、理事出席4名

令和4年3月17日

第2回 理事会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 理事長の選定について

出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席5名、監事出席2名

令和4年5月30日

第3回 理事会（臨時）

決議事項 (1) 職員給与規程の改正の件

書面決議 決議に必要な理事の数5名、同意理事5名

令和4年11月22日

第4回 理事会（定例）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

- 決議事項 (1) 令和5年度財産の運用方針案及び運用計画案の件
(2) 令和5年度事業計画案及び収支予算案の件
(3) 調教場管理用作業機械取得資金の積立期間変更案の件
(4) 調教場業務管理システム資産改良資金の設定案の件
(5) 調教場管理用作業機械取得資金の設定案の件
(6) 調教場安全監視システム監視カメラ増設資金の設定案の件
(7) 調教場管理用車両取得資金の設定案の件
(8) 第2回評議員会の開催の件

報告事項 (1) 理事長、専務理事の職務の執行状況

出席等 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、監事出席2名

令和4年12月5日

第2回 評議員会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

- 決議事項 (1) 令和5年度事業計画案及び収支予算案の件
(2) 評議員の選任の件

出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席8名、欠席1名、
監事出席2名、理事出席4名

3. 事業報告に関する附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。